

「落ち葉堆肥でエコタウン」

中山市民センター

1 事業概要

中山地域は、桜やケヤキの街路樹に囲まれた緑豊かな環境にあります。しかし、毎年秋には大量の落ち葉が発生し、その時期はしばらく落ち葉かきに追われます。落ち葉は日々の清掃の中でごみとして収集されますが、街の美化とともに落ち葉を土に還したいという気持ちを持つ地域住民もいます。そこで、平成25年度から、中山中学校区で行う地域清掃へ、管轄内の小中学生と共に地域住民も参加し、集めた落葉を本センターの事業で堆肥化しています。事業を通して循環型社会を目指すと共に、作った堆肥の活用方法も考え、地域の緑化活動に役立つことを目標にしています。



2 今年度の活動



今年度も11月16日に中山中学校区で地域清掃を行い、市民センター周辺や月急山公園で落ち葉を集めました。12月18日には、この落ち葉を用いて堆肥づくりを行いました。落ち葉堆肥は、多くの微生物の働きによって作られるため、木枠に積み上げる前に、落ち葉を水でしっかり濡らすことや、米ぬかをまぶすことが重要です。参加者からは、「大変だったが楽しかった。」「みんなでがんばって良かった。」との声が聞かれ、達成感と満足感にあふれていました。

3 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も主に落ち葉堆肥づくりに活動を絞りました。堆肥の活用についても、バラ愛好会の協力を得て、市民センターの花壇の美化等に利用し、地域住民の目を楽しませています。今年度は、春に向けて市民センターの歩道に近い場所に新しい花壇を作ることができました。

9年間継続している事業ですが、コロナ禍により2年続けて、児童館との共催や、里芋等を栽培し芋煮会を行うなど、参加者同士が交流する活動が難しい状況です。

今後の課題は、多世代にこの事業を周知し、活動を通して参加者が「学ぶ・つながる・楽しめる」ような仕掛けをしていくことだと考えます。



4 今後の展望



落ち葉堆肥づくり自体は、労力を使う地味な作業ですが、落ち葉が堆肥となる過程で、微生物の働きや発酵の仕組みを肌で感じることができます。舗装道路ではごみになってしまう落ち葉を、自然界の営みへ返していくことは、環境負荷を軽減し、環境問題を考える機会になります。今年度見出した課題に対応しながら、本事業を通して、地域における連携・協働をより活発にしていきます。